

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17411

研究課題名(和文) 海外移住する日本人家族の「スーパー・リッチ・フライト」と教育戦略に関する比較考察

研究課題名(英文) The comparative study of Japanese families' "super-rich flight" and their education strategies in Hawaii &amp; Malaysia

研究代表者

五十嵐 洋己 (Igarashi, Hiroki)

千葉大学・国際教養学部・助教

研究者番号：90768300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：世界的に深刻化する貧富の格差の中で富裕層がどのような教育を子どもに施しているかについて社会的関心が近年高まっている。本研究はマレーシアまたはハワイに移住し、現地の私立学校やインター校に子どもを通わせている日本人富裕層家族の教育戦略、アイデンティティ、そしてそのような移住を可能にする「移動産業」について調査を行った。現地へ移住する富裕層家族は、現在「グローバル人材」に求められるような外国語や異文化理解などの能力を積極的に子どもに獲得させようとしている。尚且つ、日本への帰国のタイミングも考慮しながら、日本、そしてグローバルな領域における教育・職業達成を模索している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の教育社会学の議論では、富裕層の教育は主に大都市圏において公立から私立学校を選ぶ「リッチ・フライト」現象が中心であった。本研究では、「より富裕」な家族の「グローバル・リッチ・フライト」を通じた教育戦略の実態を明らかにした。教育格差の議論の中では「貧困家庭の実情」はより調査されてきたが、富裕層がどのような教育をしているかについてが調査がなされてこなかったため、本研究の成果は貴重である。「グローバル人材」に代表されるような象徴的な能力を、どのような家庭の子どもが獲得しやすいのかという疑問に対し、より経済資本が高い家族がより有利である可能性が高い、ということがこの研究から示唆される。

研究成果の概要(英文)：This comparative research project investigated affluent Japanese families' transnational education practices in Malaysia, (the southern part of the state of Johor) and Hawaii, U.S.A., and called the phenomenon of the migration of Japanese families to these regions, "super-rich flight." For the purposes of this comparative research, I conducted fieldwork in both Hawaii and Malaysia. I conclude that their education migration strategies can be understood not only to have their children acquire global cultural capital (and regional for ones migrating to Malaysia), to pursue their well-beings by consuming a cosmopolitan lifestyle. In addition, it would be more appropriate to call this phenomenon, "global rich flight," instead because capturing all these migrants as "super-rich" would blind us to see the series of challenges and decisions these families face and make due to the relative difference of their economic wealth.

研究分野：教育社会学

キーワード：リッチフライト 教育移住 富裕層 社会階層 格差 マレーシア ハワイ グローバルエスノグラフィ

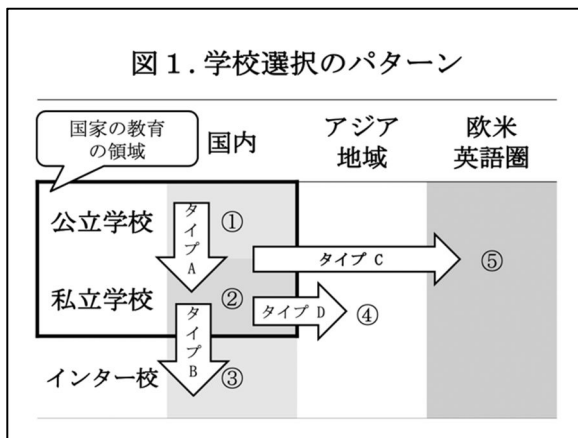
## 1. 研究開始当初の背景

2000年代後半以降、「富裕層の子どもの教育」が欧米英語圏を中心に大きな注目を集めている。その理由として、世界的に深刻化する貧富の格差の中で富裕層がどのような教育を子どもに施しているかについて学術的・政策的・社会的関心が高まっているからである。特に、経済のグローバル化の背景に人の国際移動の規模が世界中で活性化し、日本においては「グローバル人材」と呼ばれる、国境に捕らわれず活躍できる人材の獲得や育成に世界各国が凌ぎを削る中、「新しいエリート」に関する研究が欧米の主要な教育社会学の学術誌に複数特集されている(例: **Kenway & Koh (Eds) 2015. Special Issue: New Sociologies of Elite Schooling, British Journal of Sociology of Education.**)

この欧米の「新しいエリート」研究は「富裕層の子どもの教育」を新しい視点から捉えることに特徴がある。その一つのアプローチが、「社会=国民国家」と捉える方法論的ナショナリズムを疑い、国境を超えて移動する人々がトランスナショナルに移動する中で、子どもたちがどのような能力、ネットワークを獲得し、グローバルな社会階層において、教育・地位達成を行っているのかという視点である (**Ye & Nyander 2015**)。

従来、外交官や駐在員の子どもの通うとされてきたインターナショナルスクール(以下、インター校)の数は近年世界的に急増している。2000年代だけでも、**2,484**校から**5,187**校まで急増し(**Brunmitt 2009**)、その後も学校数は増加している。つまり、世界的に国民国家の教育の領域から積極的に「脱出」している事例が増加していることが考えられる。

これまでの日本における異なる学校への移動または「脱出」の研究の主流は、新自由主義経済のもと教育が市場化された影響から、「リッチ・フライト」(**藤田 2006**)と呼ばれる、比較的家庭が豊かの子どもの公立学校から私立小・中学校へ移動する、**タイプ A**(**図 1**参照)の研究である(例: **望月 2011**)。しかしながら、**タイプ B**のようにインター校へ子弟を送る傾向は今や駐在員や外交官だけでなく、国内の富裕層の家庭にもみられると議論されている(**Hayden 2011**)。また、英語圏の国や地域へ移住し、子どもに英語力を身につけさせ、現地の有名大学に進学させるといったグローバルな文化資本(**Igarashi & Saito 2014**)の蓄積戦略に代表される**タイプ C**に関するアジア諸国からの教育戦略の事例も2000年代以降多数報告されてきた(例: **Yoeh, et al. 2005**)。タイプ C に関しての日本の家族・子どもの事例は、**芝野(2013)**がグアムの事例のほか、著者が**2008**年以降調査を行なっている(例: **Igarashi 2015**)。従来は、グローバルな文化資本の蓄積のための移住先は欧米英語圏であったのが、**2012**年から、マレーシアで欧米系国際学校へ通わせることを目的とした「教育移住」をする日本人家族がメディアで散見されるようになった。今まで議論されてきた学校選択のパターンとは異なる、**タイプ D**のパターン、アジア圏内におけるリージョナルな学校選択が生まれていることが推測されることから、より複雑化する日本人家族の「リッチ・フライト」の現象についてより考察する必要がある。



## 2. 研究の目的

本研究では、日本の教育機関を「脱出」し、日本の私立学校よりも高額な授業料で知られるマレーシアとハワイの私立学校、インター校や寄宿舎学校等に子どもを送る日本人家族の現象を「スーパー・リッチ・フライト」と呼び、越境する日本人富裕層の教育戦略を比較検討する。調査地域としてハワイを選んだ理由として、ハワイは、日本人家族にとって戦後魅力的な海外旅行先であった経緯もあり、「親子留学」と呼ばれる、子どもと主に母親が渡航し、短期・長期で英語を現地の学校を通して身につけさせる欧米英語圏の中でも主要な地域であるからである。また、マレーシア、その中でもシンガポールと国境を接するジョホール州のジョホール・バル市周辺地域(以下、ジョホール州南部)を選択した理由として、前述のように**2012**年以降、「教育移住」という現象で、日本人家族が子どもの教育を目的として移住する現象が起こったアジア地域で初めての場所だからである。ハワイにおける筆者の追跡調査と、マレーシアの事例を比較考察することを目的とし、「スーパー・リッチ・フライト」を通じた、グローバルな社会階層において教育達成と地位形成を行うパターンの違いを明らかにする。具体的には以下の3点に注目する。

ハワイやマレーシアへ子どもと家族の教育目的とした移住を促す「移動産業」(**Hernández-León 2013**)の状況の把握

家族のトランスナショナルな教育戦略とその地域差: マレーシアとハワイ調査では、移住を含めて現地の欧米系国際学校に通うことになった家庭の経緯や、学歴や社会経済的背景を明らかにする。また、2つの地域に送る家族の階層背景の差位や、子どもの将来展望を日本の学校に戻ることも含めどのように模索しているかという点についても考

察する。

家族（主に母親）のアイデンティティ形成：文献調査ではマレーシアに移住する家族には父親を日本へ残して母子で留学したりと様々であることが分かっている。親は子どもを日本の学校ではなく海外の学校に送ることを通してどのように良い親（母親）としてのアイデンティティを構築し地位形成を行っているのか明らかにする。

### 3. 研究の方法

ハワイ調査：筆者はアメリカ・ハワイ州ホノルル市を中心にフィールドワークを行った。ホノルル市は全米の生活費の高さにおいては常に上位5都市に入る地域である。そして、アメリカへの移住ビザの取得への障壁も高く、ハワイへの移住は経済資本が非常に高い家庭でないと選択できない地域である。この地域で筆者は2008年頃から調査を行なっているが、2016年度から2019年度にかけて、新規でハワイへ移住した5家族へインタビューを行なった。それ以外に、ハワイに住む日本人向けのメディア関係者で、日本人のハワイへの移住に詳しい人物と4件、現地の有名私立学校への進学塾関係者と1件、有名私立学校の関係者と2件、そして移住斡旋業者2件のインタビューを実施した。また、東京で実施されている、教育移住の案件も含む、ハワイへの移住セミナーに3回参加して参与観察を行った。

マレーシア調査：2016年度から2019年度にかけてマレーシア・ジョホール州南部でフィールドワークを行った。この地域は、シンガポールと隣接する地域であるが、シンガポールと比べて生活費が3分の1程度と言われるため、シンガポールとの共同で進行する都市計画「イスカダール計画」に伴い、シンガポールの将来的なベッドタウンとして注目を集めてきた地域である。筆者はこの地域に子どもと移住した日本人家族29名とインタビューを実施した。また、現地への移住斡旋業者6名、現地日本人学校ならびにインター校、日本人生徒のための塾関係者と6件のインタビューを行なった。また、東京で実施された、マレーシア教育移住セミナーに2回参加した。研究当初は、両地域において日本人家族の子どもへのインタビューも計画をしていたが、子どもの年齢が低いことから子どもを対象としたインタビューは本研究では見送った。

### 4. 研究成果

(1)マレーシアへ移住した日本人家族の事例をもとに、家族の移住動機と今後の将来展望に注目し、トランスナショナルな移動形態の構造的なメカニズムに注目した。子どもをインター校へ通わせることでグローバル(英語)そしてリージョナル(中国語)な文化資本の獲得するための、教育的動機以外にも、ワークライフバランスの追求や海外生活への憧れ(ライフスタイル移住)、早期、または将来的な退職後の移住先の検討のため(リタイアメント移住)、不動産投資に端を発する移住(不動産移住)の動機が語られており、このような移住願望を実現させる、「移動産業」の役割の重要性を議論した。また、マレーシアは、欧米圏に比べてマレーシアは移住コストが安価であり、地理的にも日本に近く、また同じアジア人であるという認識、英語を第二言語話者が多いという要員から、初めての海外移住先として最適の場所という知識が構築されていた。イギリス系、アメリカ系、インターナショナル系など、異なるカリキュラムのインター校に子ども達が通っていることで、日本人家族の今後のトランスナショナルな移住先の想像力が非常に多岐に渡っている。そして、家族の移住の目的も様々であることから、マレーシアがトランスナショナルな移動のファーストステップの地であることを議論した。

(学会発表2-国際学会)

(2)マレーシアへ移住した日本人家族の事例をもとに、メディアによって「教育移住」と知られるようになった現象が、ジェンダーとライフスタイル移住の視点から分析を行い論文としてまとめた。マレーシアの南ジョホール地区への日本人の移住の半分以上は母子のみでなされ、家庭内性別役割分業の影響を色濃く受けており、アジアに見られる移動の女性化の現象の一部と捉えられる。そのため、母子移住、そして家族全員で移住した母親の語りを比較し、どのように現地での生活の意味を捉えているのか検討した。両グループの女性は、「グローバルな教育」の重要性、それ以外にも、海外生活への憧れとともに、慣れないアジア地域へ住むことへの戸惑いが共有されている。家族で移住した女性からは、日本に比べてワーク・ライフ・バランスの充実等による幸福感が強調されるが、母子移住の母親は、慣れない現地での生活の困難さに直面した経験も基づく自己成長の語りが共有されている。マレーシアへの「教育移住」は、子どもにグローバルそしてリージョナルな文化資本を獲得させる戦略だけでなく、家族または母親の自己成長や幸せを追求したジェンダー化されたライフスタイル移住的なプロジェクトであることを議論した。

(学会発表3-国際学会, 図書1)

(3)マレーシアとハワイへ子どもと移住した日本人家族の事例を比較考察し、グローバル化時代に出現する日本人富裕層の教育戦略を「グローバル化するリッチ・フライト」と題して考察した。

まず、この二地域に移住した家族の階層的背景を比較したところ、双方とも、企業家、不動産業経営、大手企業勤務の駐在員家庭等が多い。しかし、ハワイへ移住した家族の方が階層が高い傾向にある。実際、移住を選択する際に、マレーシアを選択した家族の数名は、ハワイへの移住コストが高いため諦めたことを理由に挙げていることから、「グローバル・リッチ・フライト」の現象において、移住先の選択が階層化されていることが示されている。

また、二地域の教育戦略のパターンを分析し、「グローバルリスト型」、「日本と海外の往還型」、「非メリトクラティック型」、「アジア地域周遊型」(マレーシアのみ)と分類できることを指摘した。「グローバルリスト型」とは、高等教育のグローバル化の中で、グローバル大学ランキングで上位に位置する欧米大学に子どもを将来的に送らせることを目標とする教育戦略をとる家族である。一方で、多くの家族が日本と海外との往還型の移動を通じた教育戦略を実践・検討している。海外移住に基づく、漢字の読み書き等の日本語能力、ナショナル文化資本の維持、向上の難しさに直面し、将来的に日本への帰国を想定している。つまり、長期的な教育戦略として、子どものナショナル、そしてグローバルな(マレーシアにおいてはリージョナルなものを含む)文化資本をできるだけバランスよく蓄積し、国内と海外の労働市場で有利に子どもをたたせようとしていると言える。また、双方の地域でも「非メリトクラティック型」の家族が存在する。子どもに障がいがあったり、子どもが日本の学校でいじめ、東日本大震災からの放射能の被害を避けるため等、子どもにとって安心して生活・教育を受ける環境を主にした教育戦略のパターンを指す。「アジア地域周遊型」の家族は、マレーシアから将来的にアジア地域で移動しながら子どもを育てたいと考える、リージョナルな移動を実践・検討する家族であり、アジア圏内での教育に基づく人の移動を考える上で大変興味深い。しかしながら、グローバルリスト型とは異なる、アジアにおいて、メリトクラティック型が存在する可能性も残る。今後はアジアの様々な地域の日本人の移住家庭のデータを収集しながら継続的な調査が必要である。

また、本研究プロジェクトの名前である「スーパー・リッチ・フライト」を題目として用いなかった理由に言及しておきたい。「スーパー・リッチ」は「億万長者(ミリオネア)」を想起させ、調査対象者のトランスナショナルな教育戦略において、経済的な制約がないように捉えられる可能性があるため、「グローバル・リッチ・フライト」の名称の方が本研究の現象の呼称に相応しいとの結論に至ったためである。

(学会発表1)

(4)「アジアにおける子育て (Parenting in Asia)」と題した国際ワークショップにて、マレーシアとハワイへ子どもと移住した日本人家族のトランスナショナルな教育戦略の事例が、アメリカの社会学者アネット・ラローが議論した、ミドルクラスの子育て戦略(意図的養育)とどのように異なりうるか検討した。アジア人の子育てスタイルは、北米の家族に比べてより「積極的」と捉えられ、それ故にネガティブな意味も含めて「タイガー・マザー」という名前で広く知られている。日本の「グローバル・リッチ・フライト」を実践するマレーシアやハワイに移住する日本人富裕層家族は、三つの卓越化を通じた子育て戦略をしていることを議論した。1点目は、日本にいるミドルクラス層の子どもよりも、より「グローバル人材像」の能力感に代表される象徴的な能力を積極的に獲得させようとしている点である。2点目は、より象徴的な能力を獲得させようとする傍ら、教育に基づく競争が激しいとされる日本の教育・社会から「脱出」することで、国内の子育てへの脅迫観念や規範から離れて、せかせかせず子育てを行うという、特権に起因する「余裕」が挙げられる。3点目として、現地で出会う中国系や韓国系の家族の熱心な子育てへの取り組みと比較し、尊敬の眼差しとともに「そこまでできない」と自らを対比させながら、子どもだけでなく母親にとっても無理のないと感じる子育てを実践していることである。

(学会発表4-国際学会)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 五十嵐洋己
2. 発表標題 グローバル化するリッチ・フライト：アメリカ・ハワイとマレーシア・南ジョホールに移住する日本人家族の教育戦略の比較研究
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Igarashi
2. 発表標題 Taking a First-step for a Transnational Journey: Education Migration of Affluent Japanese Transnational Families to Johor Bahru, Malaysia
3. 学会等名 Association for Asian Studies in Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroki Igarashi
2. 発表標題 Gaining Well-being or Making a Sacrifice? : "Education Migration" of Japanese Families to Southern Johor, Malaysia
3. 学会等名 ICAS10 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroki Igarashi
2. 発表標題 Transnational Elite Parenting: Affluent Japanese Families Choosing International Education in Tokyo, Hawaii & Southern Johor
3. 学会等名 2019 Regional Workshop of the International Society for the Study of Behavioral Development (ISSBD) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Shirlena Huang & Kanchana N Ruwanpura (Eds), Hiroki Igarashi & others	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 456
3. 書名 Handbook of Gender in Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----